

SDGs（持続可能な開発目標）と学校教育

—SDGsで福井の未来を考えよう—

令和3年9月

福井県地域戦略部未来戦略課

1 SDGs について

2 SDGsと学校教育

3 福井県の取組み

1 SDGs について

2 SDGsと学校教育

3 福井県の取組み



Sustainable 持続可能な **Development** 開発 **Goals** 目標

2015年9月、国連サミットにおいて全会一致で採択された2030年を期限とする国際目標

コラム 「持続可能である」とは？

「持続可能である」とは、今の地球環境が保たれて、未来まで続くということです。すなわち、現在のわたしたちだけでなく未来の人たちも豊かに暮らすことができる状態である、ということです。現在、人間の活動によって地球の回復力を大幅に上回る影響を地球環境にあたえていると言われていています。わたしたちの子どもや孫も豊かに暮らすためには、地球環境を守り、受け継いでいく必要があります。

持続可能な一人ひとりの行動

流しそうめんを例えると…



持続可能であるためには



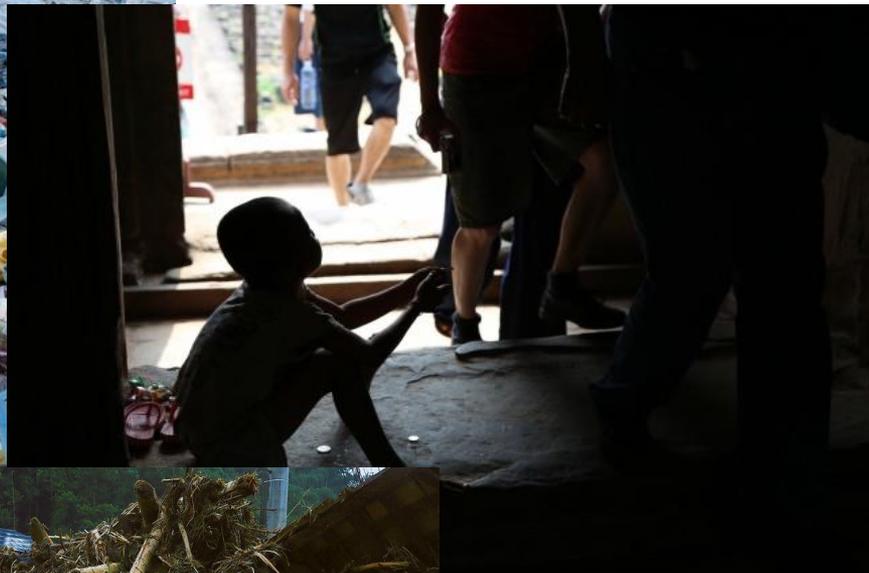
みんなが流しそうめんを食べられるような仕組みをつくるのが、「持続可能な社会」につながります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

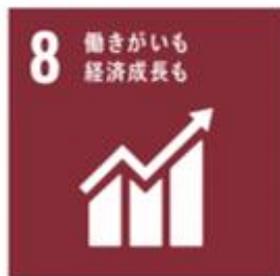


気候変動や格差など幅広い課題の解決を目指す
17のゴールと**169のターゲット**で構成

SDGsの背景



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 貧困を
なくそう



ゴール 1 貧困をなくそう

1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。

1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。

5

ジェンダー平等を
実現しよう



ゴール5

ジェンダー平等を 実現しよう

5.1 あらゆる場所における全ての女性および女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。

5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画および平等なリーダーシップの機会を確保する。



SDGsの5つの特性

1 普遍性

途上国から先進国まで**全世界、
全地域共通の目標**

2 包摂性

社会的に弱い立場の人々も含め、
誰一人取り残さない

3 参画型

全てのステークホルダーが役割を



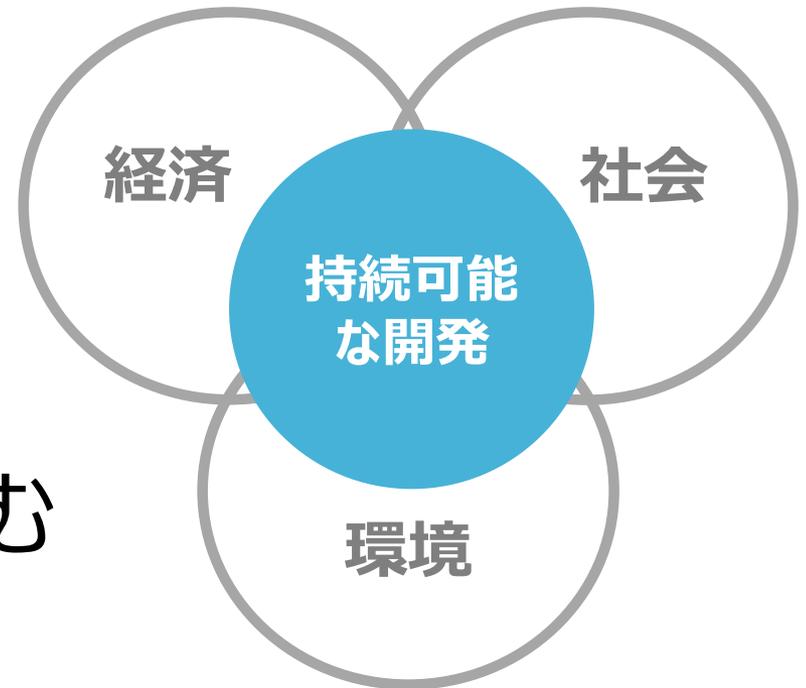
4 統合性

経済・社会・環境

の3分野の

統合的解決の

視点をもって取り組む



5 透明性

取組み状況を定期的に評価・公表する

1 SDGs について

2 SDGsと学校教育

3 福井県の取組み

ESD

Education for Sustainable Development

「持続可能な社会づくりの創り手」の育成を目的とした教育

地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、
その解決に向け自分で考え、行動する力を身につける



小学校から大学に至るまでのすべての教育段階において推進
新学習指導要領や**教育振興基本計画**にも
「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、
各教科においても、関連する内容が盛り込まれている。



ESDは「すべての持続可能な開発目標の実現の鍵」

美浜町の小学校では、企業・団体から講師を招き、SDGsの基礎を学ぶ講座を実施



丸岡南中学校では、SDGsパートナー企業と連携して 校外研修を実施



福井農林高校は、学校としてSDGs宣言を行い、企業などとも連携してSDGs活動を実施



農高生がSDGs宣言

福井県立福井農林高校が、国連が掲げる持続可能な開発目標であるSDGsに取り組みたいことを宣言した。生徒や保護者らへの啓発の他、開発商品で、二酸化炭素を削減するカーボン・オフセットを導入するなど、持続可能な社会づくりを目指す。県内の高校では初の取り組みで、全国でも珍しい。

同校の環境工学科2年生の8人が中心となり、福農SDGsプロジェクトを立ち上げた。1年生の時に受講した農業と環境の授業で持続可能な農業に関心を持ち、東京大学の助教からSDGsについて話を聞いたのがきっかけ。農高生の立場でできることを考

え、生徒や保護者、教職員に取り組みの重要性を認識してもらったことからスタートした。理解から共感、行動へと段階的に達成させるため、SDGsの17の目標ととも、分かりやすい目標も書き添えたステッカーも作成。校内に100枚余りを貼り、理解を促している。

この他、先進的な活動をしている慶応大学や秋田県横手市、地元企業とも連携。同科で学んでいる森林を活用する活動として、カーボン・オフセットを導入した。同校がフクしようゆ(福井市)と商品開発したドレッシングに削減クレジット10円分のロゴシールを貼って販売し、消費者に

取り組みを発表する生徒(福井市で)

環境保全を意識してもらおうようにした。

同校で開かれた県学校農業クラブ連盟年次大会のプロジェクト発表で、「SDGsを農業教育につなげ、地域社会の課題解決を実現したい」と宣言した。

発表者の山澤郁仁さん(16)は「SNS(インターネット交流サイト)などを活用してSDGsについて議論したり、考えたりできる場をつくりたい」と話した。(ふくく)

福井農高生CO₂削減活動

購入で10円分排出量相殺

ドレッシング容器にロゴシール

福井農林高校環境工学科1年生21人によるプロジェクトチームが、同校が開発した「フクしようゆ」のドレッシングに、容器にCO₂排出量を削減する活動を開始した。梅購入のロゴシールを貼る活動を開始した。購入するだけでなく誰でも10円分の排出量を削減でき、生徒たちは「日常生活の中でCO₂削減を意識してもらえ」と期待している。(中田誠司)

同校は今年から、国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)17」への取り組みをスタート。学校が秋田県横手市から購入した「排出量を相殺できる権利」1万円分のシールの使用として、環境工学科の

二年生が考えた。シールを貼っても「百」だけで百二十五円(税込み)の価格は変わらない。

ドレッシングは福井市の「フクしようゆ」のロゴ商品で、同校も生徒たちの提案を快諾。五月から同校店頭販売分に貼っており、生徒たちが活用する購入用チケットの配布にも協力をしている。相馬務社長(右)は「いい取り組み。取組先にもPRしていきたい」と話す。

取り組みは、来月十三日の福井県学校農業クラブ連盟年次大会でプロジェクト発表で、「SDGsを農業教育につなげ、地域社会の課題解決を実現したい」と宣言した。

発表者の山澤郁仁さん(16)は「SNS(インターネット交流サイト)などを活用してSDGsについて議論したり、考えたりできる場をつくりたい」と話した。(ふくく)

1商品につき10円が森林支援に!

ト発表し、八月に長野県松本市で開催される北信越ブロック連盟大会での発表も決まっています。

取り組みをスタートさせた「福農SDGsプロジェクト」チームの山澤郁仁さん(左)と南野雅さん(右)。

は積極的に行動を起すことで誰もが社会を変えることができることを実感できた。また、口にしたドレッシングは「福農SDGsプロジェクト」の山澤郁仁さん(左)と南野雅さん(右)が購入した。

1 SDGs について

2 SDGsと学校教育

3 福井県の取組み

令和3年5月

福井県が「SDGs未来都市」に選定

「福井の未来を担う次世代の育成」を取組みの中心に位置づけ、全県一体となって持続可能な地域づくりを進めていく



令和2年7月

県民の皆さんと福井県の将来像を共有する
「福井県長期ビジョン」が完成



「福井県長期ビジョン」では、
SDGsの理念に沿って
2040年に福井が目指す
3つの姿を描いている



自信と誇りの ふくい

「ふくいらしさ」を大切に。
県民が誇りをもって暮らす
ことにより、さらに多くの
人を呼び込む“ふくい”

「ふくいらしさ」を伸ばし、
外に開いて人を呼び込む。

誰もが主役の ふくい

すべての人が輝き、
互いに支え合い、幸せを実感
しながら、将来にわたり
安心して暮らせる“ふくい”

多様な個性を大事にし、
みんなが自分らしく輝く。

飛躍する ふくい

交通体系の進展や
技術革新を活かして、
産業の新たな可能性を拓く。
創造的で活力ある“ふくい”

変化をチャンスに、
しごとと暮らしを創造。

福井県SDGsパートナーシップ会議



SDGsの理念に沿って長期ビジョンの 実現に向けた活動を実践する 官民連携プラットフォーム

- … SDGsの普及啓発、先進事例や導入効果の紹介、
セミナーの開催、メンバー間の連携・協働の促進などを実施

「ふくいSDGsパートナー」として登録

企業・団体

教育・研究
機関

N P O

県・市町

未来のために。 ～次の世代に選ばれる福井へ～

未来を担う次世代（子ども、若者、子育て世代）に福井の良さを継承し、希望を持って自分らしくチャレンジできる社会をつくる

活動テーマ

① 次世代を育てる ふくいを愛する子どもの育成

- 郷土について学び発信するふるさと教育の促進
- 工場見学、職場体験などの受入れ
- 文化・スポーツ活動の応援 など



② 次世代を応援する 若者のチャレンジ応援

- 地域活性化に向けた活動に協力
- 大学や学生グループとの共同研究の場を提供
- 結婚を希望する若者の出会いの場づくり など



③ 次世代の社会をつくる 共生・共助社会の実現

- 外国人や障がい者など、誰もが安心して暮らせる環境づくり
- 多様な人材が活躍できる職場環境の整備
- ユニバーサルスポーツや障がい者による芸術文化活動の応援 など



④ 次世代に引き継ぐ 暮らしと風景の維持・継承

- 豊かな自然環境や魅力的な里山里海湖などの保全
- 集落の暮らしの維持・活性化への支援
- 省エネやリサイクルの推進 など





福井県SDGsパートナーシップ会議

- パートナー同士は**対等**であり、**それぞれが主役**となって主体的に活動を実践
- **組織やセクターを超えた連携**により、**地域の課題解決を図り、持続可能な地域・社会の実現を目指す**



次の世代に選ばれる福井へ

「ふくいSDGsパートナー」登録数

426 機関 (R3.7末現在)

(内訳)

企業	338
団体・NPO	48
教育機関	18
自治体・公的機関	22

小学校	3校
中学校	3校
高等学校	7校
大学	2校
専門学校等	3校



SDGsパートナーと学校との連携を支援

- SDGsを学ぶ授業や教職員の研修会などで講師ができる人材のリスト
- 職場体験や工場見学の受入れ、出前講座の実施などに協力が可能な企業・団体のリスト

県HPで公開中

SDGsパートナー登録校への支援

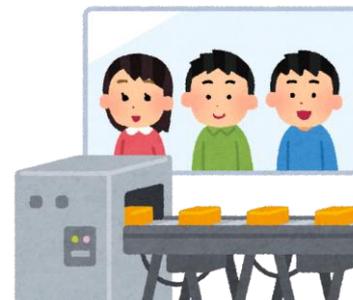
1 講師の紹介

SDGsの基礎を学ぶ講座やSDGsカードゲームの体験会などを実施する場合、学校側のご要望に応じて講師をご紹介します。



2 見学等受入れ先の紹介

企業におけるSDGsの取組みを学ぶ見学会などを実施する場合、受け入れ先候補となる企業・団体ををご紹介します。



3 連携先の紹介

SDGs学習の中で、企業・団体等にアドバイザーとして参画を依頼する、または協働での取組み実施を希望される場合などに、連携先の候補となる企業・団体をご紹介します。



SDGsパートナー登録校への支援

4 「長期ビジョン」に関する出前講座

「福井県長期ビジョン」について、県職員が分かりやすく紹介する出前講座も行っています。児童・生徒の皆さんと一緒に福井の未来を考えるワークショップなども実施できます。



みなさまの学校・会社にお伺いします！

長期 VISION

福井県長期ビジョン出前講座のご案内

「2040年のふくい」を今、考えてみませんか？

楽しくなる工夫が満載です！

- ・データから見る福井の姿
- ・福井県の先進事例の紹介
- ・クイズ形式による講義
- ・未来を考えるワークショップ等

時間：60～90分程度
対象：福井県内（内容は県民限定しませず、全国へも対応可）

参加者の声

20年先の未来を考えることなんて難しかったので、いい経験になった
・今までどうしたら福井が良くなるかを考えず、鑑賞していただけただけだった
・私たちがこれからの福井を作っていくのだと考えさせられた。 など

ふくいの“これから”に触れて、自分の未来を考えるきっかけに！

STEP1 現場でトーク 申込書を届に出発 (番号1-1)	STEP2 質疑応答の時間 疑問点を決定	STEP3 講師が質問 事前打ち合わせ	出前講座開催！
--	----------------------------	---------------------------	---------

現場でトーク 検索 QRコードはこちら



ご清聴ありがとうございました。

SDGsパートナーへのご登録を
お待ちしております。

詳しくは、県HPをご覧ください▷

